

1/16(土) まいっ! 倫理です、今朝は4時の仕事にいきなり寝てしまった  
現場の事が多岐にわたる(気にはなってる)。倫理の学びの中で自分の  
役割を徹する。今後は、  
役を徹する。大事にやります。

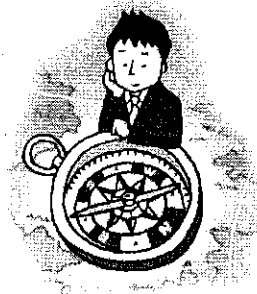
今週の倫理 960号 2016.1.16 ~ 1.22

役を徹する。大事にやります。

幸いながら阿鳥

一月のテーマ

自覚



え・たむらかづみ

# 役を知り、 役に徹する

**私** たちは、職場のみならず、  
様々な組織や集団に属して

います。それぞれの場において、  
自分の役割を自覚するには「役を  
知り、役に徹し、役を超えない」  
ことです。

「役を知る」とは、自分の役職  
の立場を熟知すること。「役に徹す  
る」とは、与えられた役職の職務  
を徹底して行なうこと。「役を超え  
ない」とは、自分のついでに役職  
の領分を超えないことです。

Aさんは、二年前から新しい上  
司の下で仕事をするようになりま  
した。気さくな人柄で接しやす  
い反面、業務においては冷徹ともい  
える厳しさを兼ね備えた上司です。  
当初Aさんは、自分に足りない  
部分を的確に指摘し、厳しく接し  
てくれる上司に巡り会えたことを  
嬉しく感じていました。仕事の決  
断が早く、何事も迅速に対応する  
姿勢は、社会人として見習うべき  
姿でした。

しかし、Aさんのもとには、毎  
日、次から次へと仕事が舞い込ん  
できます。Aさんの状況などお構

いなしに、上司は、新たな仕事の  
指示を出してきます。

「〇〇さんにすぐ確認をして」  
「今すぐ〇〇さんに電話して」

「〇〇のデータを一覧表にして」  
言われた仕事は何かとこなすも  
の、いつしか「このままでは体  
がもたないかもしれない」と思っ  
ようになりました。

数カ月が経ったある日、顔面に  
違和感を覚えたAさん。鏡を見る  
と、顔の左半分が腫れていました。

純粋倫理を学んでいるAさんは、  
鏡に映った顔を見た瞬間、「病気は  
生活の赤信号」という言葉が頭を  
よぎりました。

日々の業務を振り返ってみると、  
上司の席はAさんの左隣です。仕  
事の指示はすべて左側から飛ん  
できます。与えられた仕事を受け入  
れる事ができず、時には「こんな  
に忙しい時に!」と不足不満に思  
っていたのです。

そこでAさんは考え、まず自分  
の職責上の立場を再確認すること  
にしました。次に、その立場を踏  
まえ、上司の指示にどのように対

処するのが一番望ましいかを検討  
しました。その結果、「言われたこ  
とは、すべてそのまま受けて、即  
行動に移す」ことにしたのでした。

はじめは、いつものように腹を  
立ててしまい、言われたことをな  
かなか受け入れられませんでした。  
それでも、すぐにそのまま実行す  
るよう努めていきました。

一年が過ぎた頃、Aさんはある  
ことに気づきました。上司の指示  
通りに処理する方が、スムーズに  
仕事が進んでいたのでした。さら  
に、指示以外の仕事も、うまく進  
んでいくようになりました。

Aさんは、自分自身の「役」を  
知ること、「役」に徹することが  
できました。立場の自覚が深まる  
とともに、一回りも二回りも成長  
し、以前よりも発刺と日々の業務  
に励んでいます。

同じ目的で仕事をする上で、各  
自の立場を明確にしなければ、そ  
れぞれの良さは発揮できません。  
「役を知り、役に徹し、役を超え  
ない」という観点で、今一度、自  
身を振り返ってみましょう。